大分合同新聞

ワークシート　　年　　組　名前

豪雨災害が起きやすい「出水期」が迫っています。国は避難所での新型コロナ対応の留意点を取りまとめ、都道府県などに通知しました。

①国が４月 7 日に出した避難所での新型コロナ対応の留意点には、従来の感染症対策に加え、どんな対策が盛り込まれましたか？

②筆者が主張していることを、100～120 字にまとめてください。

③新型コロナに自然災害が重なったら―。自分たちにできる対応を話し合いましょう。

熊本・大分地震で由布院小体育館に開設された避難所＝2016年4月17日、由布市湯布院町

熊本・大分地震によって、大分県内で観測史上最大の震度6弱を記録して4年。この地震で県内では、最大で約1万6千人が避難生活を強いられた。学校の体育館や公民館に開設される避難所は、衛生環境が保ちにくく、感染症まん延のリスクが指摘されてきた。東日本大震災の避難所では、インフルエンザの集団感染が発生した。

新型コロナウイルスの感染が拡大している今、大規模な地震や豪雨災害が発生したら、避難所はクラスター（感染者集団）の温床になりかねない。国は今月、避難所での新型コロナ対応の留意点を取りまとめ、全国の都道府県などに通知した。県や市町村には、避難所での新型コロナ対策の強化と市民への周知徹底を求めたい。

論説　2020.4.16

避難所のコロナ対策

迫る出水期 対応を急げ

2011年3月に起こった東日本大震災では、最初の1週間は外傷が多く、2週目以降は感染症が外傷を上回るようになった。200人が生活していた宮城県名取市の避難所では、同年4月上旬に20人がインフルエンザに感染した。現地で対応を支援した東北大大学院医学系研究科は、マスクの量は十分にあったのに着用が徹底されていなかったり、寒さのため換気が十分に行われていなかったりしたなどの問題点を指摘している。

特効薬やワクチンがまだない新型コロナは、感染力が強い上に高齢者や持病がある人が重症化しやすい点が厄介だ。

国が今月7日に出した避難所での新型コロナ対応の留意点には、せきエチケットや手洗い、十分な換気など従来の感染症対策に加え、「3密」解消を狙った避難者の分散や過密防止などの対策が盛り込まれた。具体的には、ホテルなどの利用も想定した「可能な限り多くの避難所開設」や「親戚、友人宅への避難検討の周知」を求めている。

感染症を発症した避難者への従来の対応では、動線の分離や感染者専用スペース・専用室の確保が適切としてきたが、新型コロナでは対応が異なる。新型コロナ感染症では、軽症でも一般の避難所に滞在することは適当でないとしている。

国の通知を受けて大分県は、県内の市町村に留意点の内容を連絡し、適切に対応するよう求めている。だが、現実問題として、非常時の避難所で、どうすれば留意点で掲げられた内容を実践し、感染を防げるのかは県も市町村も手探りの状態だろう。国には「言いっ放し」にせず、実践するための政策や具体例の提示が求められる。

一方で、避難所の運営を担う人たちも、困難を追られるだろう。災害発生直後の避難所運営は自治会や自主防災組織が主体となることが想定されるが、ウイルスに関する高度な知識を持たない一般市民にとって対応は厳しい。行政による分かりやすいマニュアルづくりや衛生環境の整備、衛生物資充足などの支援とともに、災害が発生していない地域の保健師が避難所を巡回できるような柔軟な運用の仕組みづくりなどが必要となる。

九州北部の梅雨入りの平年日は6月5日。豪雨災害が起きやすい出水期までに新型コロナが終息するという期待は楽観が過ぎよう。地震はいつ起こるか分からない。急がねばならない。

2020年4月16日付大分合同新聞2面